資料２

第３回蒲田駅周辺地区グランドデザイン専門部会　議事要旨

日　時：令和２（2020）年２月 13 日（木）10：00～12：00
場　所：大田区役所本庁舎　２階 202 会議室
委　員：中井　検裕　東京工業大学　環境・社会理工学院　教授
　　大沢　昌玄　日本大学　理工学部土木工学科　教授
　　野原　卓　　横浜国立大学大学院　准教授
　　齋藤　浩一　まちづくり推進部長、新空港線・まちづくり調整準備室長
　　青木　重樹　まちづくり推進部都市開発担当部長

１　開会

２　挨拶

３　部会の成立
部会長より専門部会の開催要件と出席委員数が確認され、専門部会の成立が宣言された。

４　議事
事務局より資料２から資料５を基に説明

（委員）
全般的に必要なことは記載されており理解できるが、スマート感がない。区として産業技術をアピールしているのであれば、方針を出すべきである。
川崎だと東芝があって、駅前で実証実験をやっている。蒲田ではなかなか難しいとは思うが、新しい技術を取り入れた実験のような色があっても良い。例えば、にぎわいだと、住民、観光客、学生にセキュリティの高い Wi-Fi 環境をちゃんと整備します、などの取組を検討した方が良い。
骨子案は、教科書のようにきっちりと出来てはいるが、平成の時代の計画という感じがする。

（委員）
羽田空港跡地との連携も必要である。羽田空港跡地の中だけで完結するのではなく、蒲田にも波及するような色合いを出した方が良い。

（事務局）
区としても蒲田の特色を出していかなくてはいけないと考えている。頂いた意見を踏まえて、ものづくりのまちとして、産業の面を色濃く出していきたい。また、最先端技術も組み合わせてどのようなまちづくりが出来るか考えたい。

（委員）
空間づくりは時間もかかるが、ソフトは知恵があれば色々なことが出来る。民間がアプリを開発し蒲田でビジネスの実験などがしたいという提案をうまく受け止められるような色合いがあると良いと思う。

（委員）
教科書的なツリーシステムで出来ているので、整理しやすく分かりやすい方法だと思うが、前提として、例えば「クリエイティブに頑張りましょう」といった方針を出してみてはどうだろうか。各取組をクリエイティブに実施するといった方針なので、１つの目標に収めようとしないで良いと思う。
蒲田は色んな人が集まってくる結節点なので、様々な人たちが入りやすい雰囲気をみんなで作っていくというような方針を示した方が良い。

（委員）
目標６の交通で、先程のスマートの話と関連して MaaS の概念が入っていても良い。ただし、蒲田らしい MaaS を入れないといけない。一般的な MaaS には徒歩が入っていないので、歩いたら健康的に良くなるといった、歩くという選択肢を選べるような総合交通システム MaaS があっても良い。
ワークショップで頂いた意見の中で「蒲田は第４ターミナル」は面白いと思った。第４ターミナルにするためには、通信環境が整っていて、蒲田で仕事ができるということが大切である。建物だけではなく広場空間で過ごすというような新たなライフスタイルが提案できると良い。

(委員)
　現在のシェアサイクルシステムは大変進んでいる。大田区も実施していて、他の区との乗り入れも実施しているなら、記載した方が良い。
(委員)
　回遊を促す新たなモビリティが何を想定しているのかわからないが、最近は電動のキックボードなどの社会実験も行われている。この５年くらいでルールが作られた場合、実現性は増す。
(事務局)
　新たなモビリティについては、実際どこまで実施できるかということも含め、社会動向を注視し素案作成時にしっかり検討していきたい。
(委員)
　検討したアクションプランが、ひょっとしたら実現出来ないかもしれない。しかし、取り組む方向に向かって努力しますというのはグランドデザインなので掲げていて良い。
(委員)
　目標５の「駅・駅前広場」で京急蒲田駅周辺は確かに一定程度整備が終わっているが、やはり京急蒲田だけで立てていた目標は残した方が良い。エリア別取組で京急蒲田駅周辺を拠点エリアに設定していることもあるためである。
　特にハードだけではなく活用やマネジメント等のソフトがこれから重要になってくるなかでは、仮に一定程度整備が終わっていても、目標を立てても良いのではないかと思う。目標の整理をしないと複雑でわかりにくい面もあると思うので、どのような出し方にするか上手に言えないが、拠点として位置づけるのであれば、目標を立てておいた方が良いと思う。
　８－１②公共空間の拡充といいながら公開空地の活用となっていて、公園などの拡充をするわけではく、民地に何か誘導するという話なのであれば、少し表現が違う。
　また、８－１③が「地区計画の導入」となっていてここだけ手段になっている。地区計画を導入して何をするのかが目標だと思う。
(事務局)
　京急蒲田の駅前広場の利活用については５－３④に記載していきたい。記載内容がどちらの駅を示しているかというわかりにくさは、明確に記載するなどの工夫をして解消したい。
(委員)
　蒲田駅と書いていないところは、両方に係わるということか。
(事務局)
　京急蒲田の目標は一定程度進展しているため、目標を個別に立てるのではなく整理しようと考えた。しかし、委員ご指摘のとおり京急蒲田だけのアクションプランも確かにある中で、ＪＲ・東急蒲田なのか京急蒲田なのか不明確にならないよう、記載されている文章にＪＲなのか、東急なのか京急なのか明確にし、表現し混乱のないよう工夫している。
　タイトルで分かりにくいところがあるので、整理したい。
(委員)
　それで良いと思うが、京急蒲田は１つの大事な中心であるということを訴えたいのであれば、見える化してある方が伝わりやすい。どちらが良いと言っているわけではないが、拠点として位置付けるなら目標を立てたほうが良いと思う。
(事務局)
　京急蒲田は空港や空港跡地を結ぶ重要な拠点と考えている。乗り換え空間の整備などもあるので、新空港線を含めて書き方を考えたい。
(委員)
　エリア別取組のエリア設定だが、第一京浜で区切るのではなく、少し広めに入れても良いのではないか。
(事務局)
　先ほどご指摘にあった８－１③「地区計画の導入」に関して、京浜蒲田で地区計画を導入した目的が機能更新である。機能更新を目的とした地区計画の導入という言い方にすると目的がはっきりしてくるのではないか。
(委員)
　目標８は「建物」となっているが、内容は建物だけではなく、面的な概念が入っている。建物とするのが本当に良いのか。例えば、建物の共同化・協調化・建替えの促進は良いが、目標の文章を読むと複合的な用途をバランス良くまちの中に誘導していくとなっている。
　基本的に蒲田は複合用途のまちなので、事務局案のとおり取組の中に書いた方が良いと思

う。建物というと個別の建物だけの話になってしまうが、蒲田は産業もあれば業務もあり住宅もあり商業もあり、それらの複合的な用途をちゃんと育てていく、守っていくというのは結構大きな方針だと思うが、それは個別建物の話ではない。個別の建物も大事だが、目標のタイトルは直した方が良い。

(委員)

基本方針１が「多彩な活動が創出されるまち」であるが、略すと活動・交流・にぎわいの創出になり、基本方針１こそが、先程の複合用途のまちだと言っているように感じる。多彩や複合のような感じがもう少しわかるようにした方が良い。蒲田は、様々な用途が混ざり合い相乗効果を生み出していることが魅力だと思うので、全体を通じてそのような雰囲気が伝わると良い。

まとめ方だが、整理してツリーとなったものを、もう一回最後に繋ぐという事があっても良い。目標の５・６・８を足すと、歩行者の豊かな活動がグランドレベルに見えるまちが作られることが読み取れる。

例えば、パブリックスペースは、にぎわいのためでもあるが、防災のためでもある。整理しすぎると、防災のための〇〇広場を作りますとなり、にぎわいのための広場であることが読み取れなくなる。アクションプランを検討する時に、それぞれがどのように繋がるとどのようになるのか分かるように出来ると良い。

(事務局)

ご指摘はごもっともである。横櫛を刺す必要があることは認識している。グランドデザインの後半で示唆するのか、或いは前半にするのかを含めて検討していきたい。

(委員)

平成 30 年のパーソントリップ調査から外出率が落ちてきていることが分かっている。蒲田は色んなものが高密度に高機能にコンパクトに集積されているので、「外出がしたくなる、外で活動したくなるようなまちづくり」が必要であると思う。目指す姿ににぎわいの創出とあるが、「外に出て活動したくなる」、「外に出たくなる」というキーワードを盛り込んではどうか。

テーマ２「産業・ビジネス」だが、蒲田は最近夜間人口が増えている。品川や新宿に働きに出ている方が多く、働きかたのスタイルが変わってきている中で、駅の近所で少しだけ働くことができる空間があっても良いのではないか。

テーマ９の「災害」とは何なのか。色々な災害を想定しているが、ひとくくりに災害という言葉にしてしまうのはいかがか。何を想定しているのか書いておいた方が良い。電力は一番大切で、いくら情報を発信しても電力がなければ意味がない。電力確保、電力インフラについてしっかり考えた方が良い。

(委員)

先の委員のビジネスに関するご意見は、「産業・ビジネス」に入れるのか、どこに入れるのかが問題である。「多様な人が快適に暮らせるまち」と目標で書いてあることは良いが、アクションプランはほとんど住民向けの話である。しかし、働く人、学生向けのアクションプランがあった方が良い。

10 ページ目の説明は良いが、そのごく一部を取り出してアクションプランになっているので再考すること。

災害は少なくとも地震と水害くらいは想定するのではないか。

(委員)

大田区に地域防災計画があるが、それは大田区全域を捉えていて、蒲田ならではの防災計画ではない。

(委員)

せめて、どういうリスクに襲われるか考えておかないといけない。ハザードマップとのすり合わせ、水害・地震は考えた方が良い。

(事務局)

多摩川の決壊までを想定した方が良いか。

(委員)

区で浸水想定区域図やハザードマップが作られていると思うが、それが前提でよい。地図上に色がついているなら色がついているなりの方針を書いた方が良い。避難の体制や業務継続のマニュアルを検討など。

18 ページの「景観」ですが、「蒲田らしい景観」がある。ぴかぴかのビルが並んでいるだけではなく、下町の雑多な感じ、昭和レトロっぽいところもあれば、町工場の風景もある、そ

ういう景観を大切にする事が良いと思う。文章を読むと、少し蒲田と違うのではという気がする。

(委員)

前回の委員会資料は「清潔で美しいまち」だったので、比べて目標は良くなったが、中身が追い付いてないのかもしれない。目標の文章を考えた方が良い。

(委員)

エリア別取組の資料だが、「拠点エリア」という名前に違和感がある。エリアの中にさらにエリアがあるのはおかしい。

(委員)

商業中心エリアと蒲田駅周辺エリアが重複しているところがある。エリアとして位置付ける意味を整理する必要がある。

(事務局)

現行のグランドデザインで「商業中心軸」としていた軸を、「商業中心エリア」とした。

(委員)

エリア図における赤色矢印線には意図があるのか。

(事務局)

矢印線は主要な道路を示しており、にぎわいのある回遊路を示している。

(委員)

議論が煮詰まっていない中で骨子としてこれを出すのは厳しいのではないか。

(委員)

あくまで骨子なので、個別道路の上に矢印を書くのは考えた方がいいかもしれない。骨子の段階は大きな矢印を書いてはどうか。大きな矢印を書くなら駅をまたいで一本の太い矢印を書いた方が良い。

(事務局)

骨子の段階では資料のような図ではなく、概念図とするかなど表現方法を検討する。

(委員)

概念図も駅を突っ切った一本の矢印ではダメなのか。一本の矢印の方がメッセージ性が強いのではないか。

(委員)

沿道エリアを環八から 20m としているが、取組みが「減災に向けた取り組み」となっており表現はこれでいいのか。これは、建物を建て替えて高いものを建てて、耐震化や防災に強いというまちにすると言うことだと思うが、現行グランドデザインの「災害に強い、幹線道路沿道にふさわしい建物の建替え促進」の方がわかりやすい。また、「環境に配慮したまちづくり」というのもわかりにくい。

(委員)

２ページ目の広域構造図だが、臨海軸がこの方向で良いのか。事実としてわかっていることは入れた方が良い。

(委員)

区民参画については、しっかり実施出来ていると感じた。ポストイットを貼るイベントは常時実施しても良い感じがする。

(委員)

最大限の効果が得られ、効率的で良かった思う。多くの意見を頂けて良かったと思う。

5　閉会